

平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 10 月、11 月稚魚調査 速報

●実施状況

令和元年 10 月 28 日に城南大橋とお台場海浜公園で、11 月 29 日に葛西人工渚で稚魚調査を実施した。天気は両日ともに晴れで、10 月調査時の気温は 19.0～19.7℃、11 月調査時は 8.4℃であった。両日ともに調査当日は大潮で、10 月調査時の満潮は 4 時 51 分、干潮は 10 時 55 分、11 月調査時の満潮は 7 時 00 分、干潮は 12 時 26 分であった(気象庁のデータ)。

9 月調査時に比べ、10 月調査時はシロギス、マゴチ等の体長が大きくなり、個体数は少なくなっていた。これらの多くは、成長に伴い深所へ移動したものと考えられる。また、11 月に調査を実施した葛西人工渚では、アユの仔魚が確認された。

	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
調査日	2019 年 10 月 28 日	2019 年 10 月 28 日	2019 年 11 月 29 日
作業時刻	10:16-11:05	8:55-9:52	11:25-13:10
水温(℃)	19.9	18.8	17.3
塩分(-)	8.2	12.7	29.0
透視度(cm)	36.0	41.0	40.0
DO(mg/L)	5.7	5.3	6.6
DO飽和度(%)	65.5	61.0	81.2
波浪(m)	0.2	0.1	0.1
pH(-)	7.2	7.4	7.9
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	干潮の前後に調査を実施した。	下げ潮時に調査を行った。渚には 20 名程度の観光客がいた。	干潮の前後に調査を実施した。

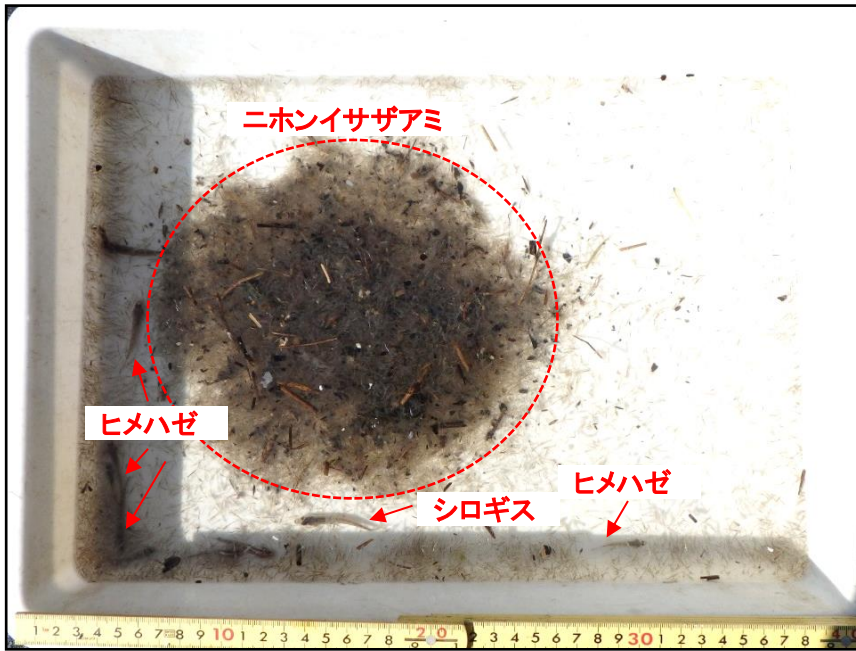
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^{注)})	ヒメハゼ(+)	マルタ(+)	アユ(+)
	マゴチ(r)	サツバ(r)	キチヌ(+)
	シロギス(r)	ヨウジウオ(r)	ヒメハゼ(+)
		ビリンゴ(r)	ヒモハゼ(r)
		ヒメハゼ(r)	ビリンゴ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(G) アキアミ(+)	シラタエビ(+) ニホンイサザアミ(+)	ニホンイサザアミ(G) シラタエビ(m)
備考	他にエビジャコ属が採取された。	他にチチブ、アサリ、エビジャコ属等が採取された。	他にアキアミ、エビジャコ属、アラムシロガイ等が採取された。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。
北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm

シロギス



東京湾では、湾奥から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。産卵期は 5～10 月。

マゴチ



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4～7 月。成長するにつれて、徐々に深場へと移動する。

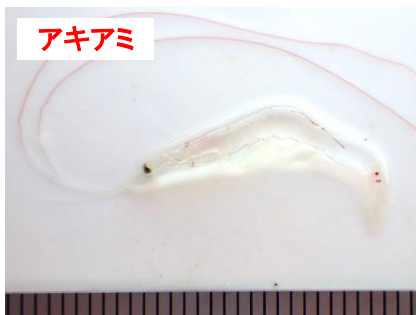
ヒメハゼ



全長は 9cm 程になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色によく似ている。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。

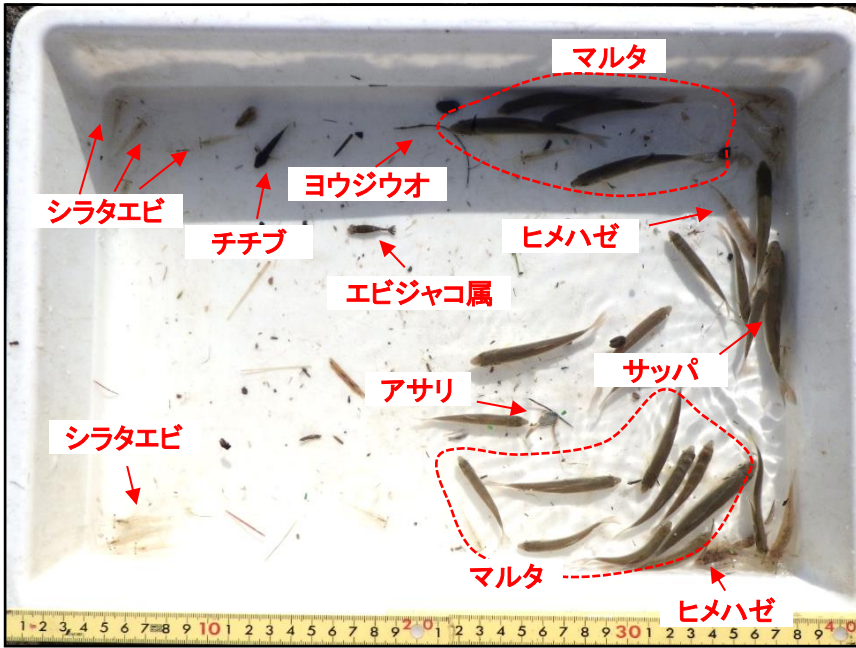


内湾に生息するサクラエビの仲間。体長は 30mm 程。触覚が赤いことから、新潟県では「あかひげ」と呼ばれる。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている

お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm

マルタ



河口付近の干潟域では、4月下旬から5月上旬にかけて体長 2cm 程の稚魚が大量に出現する。干潟域には、梅雨時から秋までの期間、体長 5~15cm 程になるまで滞在する。コイ科で、産卵のため河川を遡上する。

サツパ



東京湾では、内湾を中心に湾全域でみられ、特に内湾の浅所や河川の河口域の砂泥底に群れで生息する。産卵期は主に夏季。体長 7~8cm 前後で成熟する。

ヨウジウオ



ヨウジウオ科魚類では、東京湾で最も普通にみられる種。湾奥から外湾にかけてのアマモ場で多くみられる。全長 30cm 程度になるが、採取された個体は約 7cm 程であった。

チチブ



内湾や河口域に生息し、泥底から砂泥底にある転石やカキ殻の間や下などに多くみられる。雑食性。

ビリンゴ



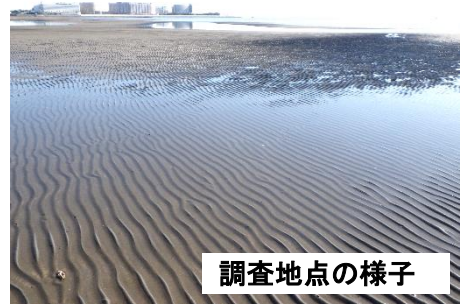
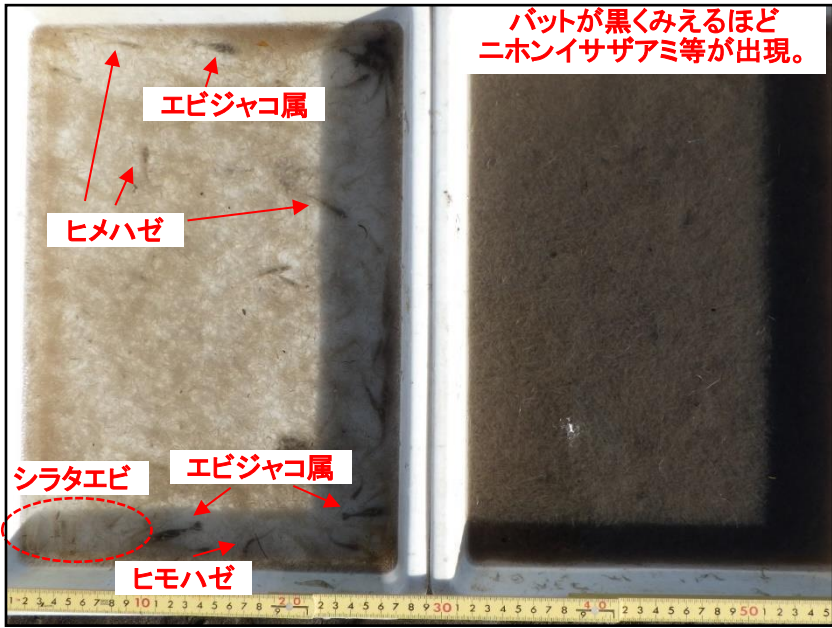
河口付近の干潟域で稚仔魚が 3~5 月に大量発生する。稚魚が成長するにつれて河川下流域に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵する。

アサリ



潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝である。東京湾のものは殻の高さが低くて、模様のコントラストが強いものが多い。

葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子

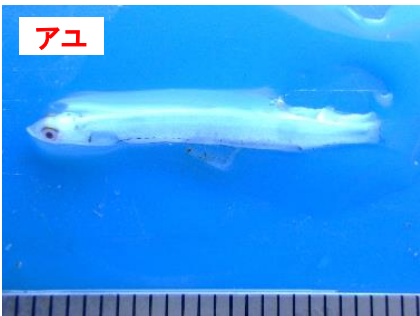


調査の様子

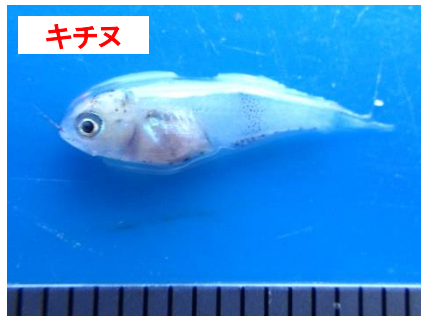
東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm



川を遡上する前の稚魚で、海で生活する間は体の透明感が強い。産卵は夏から秋に河川中流の砂礫底で行われ、孵化後卵黄を吸収しながら海に流下する。干潟域は河川を遡上する前に利用している。



沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底などに生息する。クロダイに似るが、腹鰭、臀鰭、尾鰭の下方部が黄色い。東京湾の干潟域では、10~11月に 9~17mm ほどの仔稚魚が採集されている。



河口域や潟湖の干潟域に生息する。体はミズのように細長い。アナジャコなどの甲殻類の巣穴を産卵場所や隠れ家として利用する。環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されている。



湾奥の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴がある砂泥地を好む傾向がある。アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。小型の甲殻類を食べる。



スジエビ類よりも大型で、体長 7cm 程になる。汽水域に生息しており、触角が青く、額角がトサカ状に盛り上がることで他種と簡単に見分けられる。



ニホンイサザアミは体長 10mm 程、クロイサザアミは体長 15mm 程になる。クロイサザアミは、腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。